

がんばる人がいるから、日本は元気になれる。



秋田杉をふんだんに使用したユニークなデザインの図書館は、いつでも勉強できる場を提供するため、365日・24時間開館している

“全球化”時代に求められる人材を秋田の地から

中嶋嶺雄さん 国際教養大学理事長・学長

秋田県産の杉に近い森の中に7年前に開学した国際教養大学は、「就職率100%」の大学として知られている。しかし、中嶋嶺雄学長は就職率の高さを心配する。この大学は国立大学で唯一、教育目標そのものを校名としてい

「国内外から集う『知の一大拠点』自ら考えやり抜く力育てる」

「これからの社会に求められるのは、多様な文化を持つ人々と共通言語である英語でコミュニケーションできる人材だ。進歩的なリーダーシップを発揮できる人物。そして必要とされる知識が、自ら考えやり抜く力であり、その基盤となる教養(リベラルアーツ)だ」と中嶋学

中嶋学長はかつて学長を務めた国立大学で改革に挑み、旧弊と保守性に阻まれ形として動き出している。

「本校は決して就職に強い人材養成を目的にしているのではない。あくまで『全球化(中国語でグローバル化)』時代に必要となる『国際教養』を備えた人材の育成に取り組んでいるだけだ。この大学は国立大学で唯一、教育目標そのものを校名としてい

「国内外から集う『知の一大拠点』自ら考えやり抜く力育てる」

「これからの社会に求められるのは、多様な文化を持つ人々と共通言語である英語でコミュニケーションできる人材だ。進歩的なリーダーシップを発揮できる人物。そして必要とされる知識が、自ら考えやり抜く力であり、その基盤となる教養(リベラルアーツ)だ」と中嶋学

中嶋学長はかつて学長を務めた国立大学で改革に挑み、旧弊と保守性に阻まれ形として動き出している。

挑む!

特別編



なかしま・みねお 1936年長野県生まれ。1963年長野県生まれ。東京外国語大学中国科卒業、東京大学大学院社会学研究科修了、社会学博士。東京外国語大学学長、アジア太平洋大学交流機構(UMAP)初代国際事務局長、中央教育審議会委員、教育再生会議有識者委員など歴任。2004年国際教養大学開学と同時に理事長・学長に就任。

いまこそ日本

東日本大震災は、人間の歴史に残るほどの大きな惨劇を私たちに与えてくれました。地震で被災して多くの人が家を失った。尊い家族や友人を一瞬のうちにかき、深刻な二次的災害も起りました。被害の全体像は、後方に集まるほどの規模に上ります。しかし、被災してはばかりはいられません。これほど厳しい状況の中で、被災地では多くの人が力を合わせて明日への一歩を踏み出そうとしているのです。日本中、そして世界から数々の応援・支援が寄せられ、復興に向けた動きも着実に始まっています。

踏み出す人の声をエールに

向かい風と心を乗り越えて、ひかける「特別編」を昨年の「特別編」に引き継ぎました。そして次の「特別編」を月末に掲載するよう準備を進めていました。その矢先の大災害。私たちは休戦も考えず、しかし私たちに何が出来るかを問い巡らす、それはがんばる人の声を伝えることでした。こうした思いで「挑む」特別の取材に応じてくださった方々の声を、震災後に寄せられたメッセージを交えて4月から掲載しています。今回は国際教養大学理事長・学長の「いまこそ、日本。一人ひとりのがんばる力を合わせ、逆境を乗り越え、新しい発展への道を歩んでいきたいと思います」。

Message — あすへの絆

日本はこれからどうするのか いまこそ英語による 迅速・正確な情報発信を

日本は「危険な国家」になってしまったのでしょうか。外国の報道の影響もあってか、大震災以降は本学の留学生も約半数が一時帰国、または完全帰国してしまいました。今どこで何が起きているのか、日本はこれからどうしていくのか、国外に向け正しい情報を迅速に発信していなければならないのに、国としての広報体制が全くなっています。残念ながら海外では正確な情報や不安が独り歩きをして、日本の現状とは異なるイメージが先行しているようです。今回の大震災による尊い犠牲に報いるためにも、また日本の力強い復興のためにも、共通言語である英語による正確、かつ速やかな発信が必要不可欠だと今回改めて痛感しております。

企画・制作=日本経済新聞社
クロスメディア営業局

広告